

具体的な事例から見えてきた課題

梅花の蕾のほころびに少しずつ春の訪れを感じる 2 月 16 日（木）に第 164 回障害者地域生活支援研究会が開催されました。今回は北九州市障害者自立支援協議会（以下、自立支援協議会） 定例支援会議課題協議部会 部会長 である 北九州市立総合療育センター 地域支援室 室長 横田信也さんを発言者に迎え、『具体的な事例から見えてきた課題 ～自立支援協議会 定例支援会議の中から～』と題して行われました。



障害のある人たちが、地域で生活していく中で、いろいろな課題があります。自立支援協議会では、この様な課題に対して、官・民で協働し、検討を行っています。毎月 1 回 3ヶ所で、官・民の相談支援機関が参加する定例支援会議で、検討すべき課題が確認され、その課題が隔月毎に開催されている定例支援会議課題協議部会で協議されています。



この日は定例支援会議課題協議部会で協議された課題の一部について紹介されました。・・・障害のある人が、スポーツ施設を利用しようとした時に、障害のある方を受け入れてくれる施設が少なかったり、施設が使いつらかったり、そもそも受け入れてくれる施設があるかどうかという、情報が不足しているなどの現状があり、障害があることでスポーツ施設を気軽に利用できないといった課題が取り上げられました。そこでまずは現状把握のために、北九州市障害者スポーツ協会が実態調査した情報を共有し、市内の官・民のスポーツ施設での障害のある方の受入状況等の実態をつかんだ上で課題を協議していく方向で進めていることがあります。

この他に、入院中の移動支援の取扱い等、法律や制度の解釈により関係者の対応が異なるような課題については、一旦情報を整理した上で、障害福祉課より文書で周知を図り、対応格差の解消に努めています。そして、障害特性に対する理解を広げ、質の高いホームヘルパーの人材育成が必要な課題に対しては、毎年『障害者（児）ホームヘルパースキルアップ研修』の企画・実施に取り組んでいるとの報告がありました。



これまで定例支援会議から課題協議部会に報告された課題は多岐に渡り、現在 39 課題に整理されていますが、障害のある人が、地域で暮らしていくための課題を解決するのは容易ではありません。そこで、定例支援会議で課題として挙げることによって、地域の課題として、関係者で共有できることが重要なことと話されていました。しかし、この課題は会議に参加している方にしか共有できていないので、今後は「情報共有の方法を考えていきたい。」「情報発信を行うとともに、現場で直接支援している方や当事者の意見をまとめていくための努力を行い、皆さん方にも積極的に意見を発信して頂きたい。」と、横田さんが締めくくりました。



今回のテーマである、定例支援会議から示された現状の課題を解決していくながれをご存じの方は、この会場の中にほとんどいらっしゃいませんでしたが、参加された方の中で、「今日参加して、定例支援会議の存在を知り、悩みを出し、繋げる場所があるのを知ってよかった。今後、利用していきたい」との声が聞かれました。

今後も当研究会で情報発信・共有を図り、皆さんに参加してよかったと思って頂ける当研究会を目指したいと思います。

今回の参加者は 37 名。内 3 名の新規の方にご参加いただきました。ありがとうございました。



※こちらの議事録は北九州市障害者自立支援協議会のホームページでもご覧いただけます。

<http://kitakyushu-net.shien-c.com/>